



中学校社会科地理的分野教科書掲載の景観写真の読み取りに使用する連続、非連続型テキストの数的推移とその分析：A社出版の昭和61年検定済から令和2年検定済教科書进行分析対象として

久保，哲成

(Citation)

兵庫地理, 69:119-132

(Issue Date)

2024

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489586>



中学校社会科地理的分野教科書掲載の景観写真の読み取りに
使用する連続、非連続型テキストの数的推移とその分析
—A 社出版の昭和 61 年検定済から令和 2 年検定済教科書を分析対象として—

久保哲成

1 研究のねらい

(1) 学習指導要領における「景観写真の読み取り」
技能の位置づけ

平成元年告示以降の、「中学校学習指導要領(以下、学習指導要領の表記とする)社会科地理的分野」での、「景観写真の読み取り技能」に関する記述を見ていくと、「景観写真の読み取り技能」を習得することの重要性を述べた学習指導要領は、平成 10 年告示以降、平成 20 年告示、平成 29 年告示(現学習指導要領)と 3 回の改訂毎に述べられている(表 1)。

表1 中学校社会科地理的分野学習指導要領の「景観写真の読み取り」記述有無の推移

学習指導要領 告示年	平成元年 (1989年)	平成10年 (1998年)	平成20年 (2008年)	平成29年 (2017年)
「景観写真の読み取り」 記述の有無	なし	有り	有り	有り

平成元年告示の学習指導要領では、表 2 に示したように、「総則」の部分で、全教科全科目に対しての「視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用」を指示した記述はあるが、同年告示の社会科地理的分野の学習指導要領では、「景観写真の読み取り技能」を習得することの重要性を述べた記述はなかった。

それが、表 2 のように、平成 10 年告示の学習指導

要領社会科地理的分野で「景観写真の読み取り」技能が重要な地理的技能として明記された。その後、平成 20 年告示、平成 29 年告示の学習指導要領社会科地理的分野でも明記されて、現在に至っている。

このことから、「景観写真の読み取り」技能は中学校の地理学習で習得すべき重要な地理的技能の一つと位置づけられたと考えられる。

(2) 兵庫県内公立中学校で採択されている教科書
での「景観写真の読み取り」技能の位置づけ

表 3 より、この 5 年間の、兵庫県内 20 教育委員会の公立中学校における社会科地理的分野教科書(以下、教科書と表記)の採択状況を見てみる。

今年度もふくめて過去 5 年間で採択されている教科書は、3 つの出版社の教科書となっている。この 4 年間では、A 社の教科書が 17 市町で採択されていることがわかる。

表3 兵庫県立公立中学校での出版社別社会科地理的分野教科書採用数の推移

採択年度	令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
	採用地区数	割合(%)	地区数	%	地区数	%	地区数	%	地区数	%
A社	10	50.0	17	85.0	17	85.0	17	85.0	17	85.0
B社	3	15.0	1	5.0	1	5.0	1	5.0	1	5.0
C社	7	35.0	2	10.0	2	10.0	2	10.0	2	10.0
地区数計	100%		20	100	20	100	20	100	20	100

(兵庫県教育委員会資料より作成)

そこで、地理的技能を習得するために設けられた複数の特設コラムにおける「景観写真の読み取り」技能の習得に向けたコラムの位置づけを、この 3 社の教科書から数的に分析する。

表 4 をみると、地理的技能の習得をめざすコラム

表4 教科書記載の習得すべき地理的技能コラム数と
景観写真読み取り技能コラム数の推移

出版社	教科書検定年	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
A社	習得技能コラム数	13	15	15	25	23
	読み取りコラム数	1	1	1	2	1
B社	習得技能コラム数	15	22	24	16	32
	読み取りコラム数	1	1	3	1	1
C社	習得技能コラム数	5	37	30	36	31
	読み取りコラム数	0	6	2	6	2

表2 各学習指導要領における「景観写真の読み取り」に関する文章記述

告示年・実施年度	中学校学習指導要領・社会科地理分野
平成元年告示 (1989年)	総則 第6 指導計画の作成等に当たっての配慮すべき事項 2 以上のほか、次の事項に配慮するものとする。 (9) 視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るとともに、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用にも努めること。 第2節 社会 第2 各分野の目標及び内容 (地理的分野) 1 目標 (5) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する態度を育てる。
平成10年告示 (1998年)	3 内容の取り扱い (2) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 ア 地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるように系統性に留意して計画的に指導すること。また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をすること。
平成20年告示 (2008年)	3 内容の取り扱い (2) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 ア 地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるように系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をすること。
平成29年告示 (2017年)	3 内容の取り扱い (2) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 イ 地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理になど地理的技能を身に付けることに当たっては、系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。

が新たに教科書に設けられるようになったのは、平成 13 年検定済教科書（以下、平成 13 年検定、のみの表記とする）以降である。3 社とも平成 13 年検定以降、5 冊の教科書を出版しているが、3 社ともその 5 冊の教科書には、地理技能を習得するためのコラムが設けられている。

そこで、3 社別に 5 冊の教科書の地理的技能の習得をめざすコラムの内容を分析した。その結果が表 4 である。C 社の平成 13 年検定では「景観写真の読み取り」技能を習得するためのコラムは設けられていなかったが、それ以降の 4 冊の教科書では、そのような目的をもつコラムが設けられた。

他の A 社、B 社では、平成 13 年検定以降、すべての教科書に「景観写真の読み取り」技能を習得させるためのコラムが設けられている。

つまり 3 社ともほぼすべての教科書に「景観写真の読み取り」技能を習得させるためのコラムが設けられていることがわかり、このことから、この技能の習得の重要性が理解できる。

(3) 中学校社会科地理的分野教科書に掲載されている景観写真の数的推移

1 の(1)と(2)から、教科書での「景観写真の読み取り」技能習得の重要性が高まってきている状況は理解できたが、では、教科書内に掲載されている景観写真についての位置づけにどのような変化が起きているかを確認してみる。

ここでは、各教科書に掲載された景観写真枚数と、本文 1 ページ当りの掲載平均枚数の推移から分析してみた。

分析を行うにあたり、以下の基準で、分析対象の景観写真を限定した。

① 教科書の分析範囲

- a 本文に則した景観写真とする。ここでの本文とは、教科書の本文ページ数を記した範囲とした。
- b 従って、巻頭・巻末、口絵等の部分は除外した。
- c 本文内であるが、教科書内での地域調査に類する単元は除いた。その理由は、調査対

象地域で撮影された写真が多数掲載されるので、特定地域の景観写真の数が特に多くなり、偏りが出てくると考えたからである。

② 写真の分析範囲。以下の種類の写真は景観写真の対象外とした。

- a 衛星写真：基本的に、地域の景観を捉えきれないから除外した。しかし、航空機等から撮影した空中写真は地域の景観を捉えているので、分析対象の景観写真とした。
- b 標本写真¹⁾：看板、標識、農作物、家畜・鉱物等を写した写真で、背景が写っていない写真。

以上、①の教科書の範囲内で、②を除いた景観写真として、表 5 にある写真枚数と対象ページ数を確定していった。

各社とも、掲載された景観写真枚数は、昭和 61 年検定から令和 2 年検定まで、平成 13 年検定や平成 17 年検定の教科書を除いて、各改訂毎に、増加している。3 社の昭和 61 年検定と令和 2 年検定を比較してみると、A 社では 278 枚から 524 枚、B 社で 234 枚から 443 枚とともに約 1.9 倍に、C 社では 173 枚から 536 枚で約 3.1 倍と大幅に増加していることがわかる。

表 5 で、ページ毎の掲載写真の平均枚数の推移をみる。昭和 61 年検定と令和 2 年検定を比較してみると、A 社では、0.98 枚から 1.85 枚と約 1.9 倍、B 社では、0.92 枚から 1.79 枚と約 1.9 倍、C 社の場合は、0.62 から 2.26 と約 3.6 倍と 3 社とも大幅に増加していることがわかる。

表5 3社教科書の本文掲載の景観写真枚数と1ページ当りの景観写真平均枚数の推移

主 社 名	教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
A社	景観写真枚数	278	272	267	242	290	284	434	511	524
	対象ページ数	283	287	307	303	196	193	259	265	284
	写真枚数/ページ数	0.98	0.95	0.87	0.80	1.48	1.47	1.68	1.93	1.85
B社	景観写真枚数	234	273	278	309	179	353	380	523	443
	対象ページ数	254	264	265	270	157	195	229	259	248
	写真枚数/ページ数	0.92	1.03	1.05	1.14	1.14	1.81	1.66	2.02	1.79
C社	景観写真枚数	173	174	158	335	202	270	594	470	546
	対象ページ数	277	277	267	268	201	208	274	254	242
	写真枚数/ページ数	0.62	0.63	0.59	1.25	1.00	1.30	2.17	1.85	2.26

つまり、3 社とも昭和 61 年検定では、1 ページあたり 1 枚未満の景観写真の掲載であったが、令和 2 年検定では 1 ページ当たり 2 枚からそれ以上の景観写真を掲載していることがわかる。また、これらの数

値の変化は、教科書本文に掲載された景観写真枚数の増加の割合とも軌を一にしていることがわかる。

この2つの点、掲載されている景観写真の枚数と、1ページ当りに掲載されている景観写真平均枚数の推移から、教科書本文内での景観写真の重要性が増してきていると言える。

(4) 教科書の景観写真を扱った先行研究

教科書に使用されている写真教材、景観写真を扱った先行研究は非常に少ない。沖(2002)と澤田(2015)のみである。

沖(2002)は、「明治期の地理書および地理教科書における写真資料の導入」で、初版発行が明治期である地理書および地理教科書を調査した。調査対象の書籍に掲載されている視覚資料のうち、写真(金属製版でないもの)と、銅版画や木版画などの各種版画に着目し、これらにおいて写真資料が占める割合やその経年変化について、量的な変化と質的な変化の両面から変遷を明らかにした。

明治30(1897)年以降、大正期に、視覚資料の大半を写真が占めるようになり、写真の掲載点数も増え、また比較的鮮明で掲載意図がより明確な写真資料が多くなっていった分析成果を報告した。

澤田(2015)は、「小学校地図帳における世界に関する地理写真の内容の変化―自然事象を中心として」で、学習指導要領改訂を基準に5つの年代を設定し、小学校地図帳に掲載されている写真の撮影対象の国、写真内容を分析した。

学校で教材として使用する地図帳は、文部科学省検定の地図帳を使用するので、教科書と同じ扱いである、よって、教科書と同等と判断して、先行研究の1つと考えた。

面積が大きい国が対象となり、自然/社会環境が包括される写真枚数の割合は経年的に減少傾向を示すことを分析報告した。また、自然/人文環境の両者の理解に関する地理写真の扱われ方の留意点が年代的に変化する必要性を本研究は提示している。

この2つの先行研究では、教科書掲載の景観写真の読み取りについて扱っていない。

この研究では、教科書掲載の景観写真の読み取り

に使用する連続型テキスト、非連続型テキストと景観写真との関係性を分析することを目的とした。

(5) 分析の方法

このように、数的に大きく増加し、その重要性が大きくなってきたと考えられる教科書本文内の景観写真の役割が、「景観写真の読み取り」技能を重視する学習指導要領の指示を受けて、どのように変化してきたのかを、景観写真の読み取りに使用する連続型テキストと非連続型テキストとの関係で考察を試みた。以上が今回の研究のねらいである。

そこで、連続型テキストと非連続型テキストの定義を明確にしておく。「資料4-9 PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向 1 PISA調査における読解力の定義、特徴等」(文部科学省ホームページ(2024))によると、以下のように定義されている。

- ① 連続型テキスト：文と段落から構成され、物語、解説、記述、議論・説得、指示、文章または記録など。
- ② 非連続型テキスト：データを視覚的に表現した図・グラフ、表・マトリクス、技術的な説明などの図、地図、書式など。

となっている。

この定義を基準に、教科書本文中の「景観写真の読み取り」に使用する連続型テキストを、以下のようにした。

- ① 解説文：写真のキャプションを補う文章。
- ② コラム文：本文から外れて別枠を設けて、詳しい解説をおこなっている文章。

図1の模式図では、解説文とコラム文の位置づけを示した。また、連続型テキストの数え方と、連続型テキストの使用で読み取りに使用する景観写真の数え方を示した。

図1のなかの写真2から、景観写真の読み取りに使用する連続型テキストは、解説文とコラム文の2種類になる。しかし、この2種類の連続型テキストが読み取りに使用する景観写真は同じものなので、景観写真枚数は1枚となる。

次に、「景観写真の読み取り」に使用する非連続型

テキストについてである。今回の分析では以下の 5 種類を景観写真の読み取りに使用する非連続型テキストとした。

- ① 地形図・地勢図。
- ② 地図：地形図・地勢図を除いた、主題図を中心とする地図類。
- ③ グラフ。
- ④ 表・資料。
- ⑤ 模式図・イラストレーション（以下、イラストとする）。

写真1						
写真1 高床になっている集合住宅(ロシア、2016年撮影) 建物の柱は、永久凍土まで打ち込まれている。						
写真2 熊野古道の保登山道に土を補充している。						
写真2 熊野古道の保登山道に土を補充している。						
写真番号	読み取り 写真枚数	連続型テキスト種類	解説文	コラム文	連続型テキスト延数	読み取りに使用する 連続型テキスト種類数
写真1	1	読み取りに使用する 連続型テキスト数	1	0	1	1
写真2	1	読み取りに使用する 連続型テキスト数	1	1	2	1

図1 景観写真の読み取りに使用する連続テキスト(解説文とコラム文)の延数とテキスト数の数え方に関する模式図

図2は、1枚の景観写真の読み取りに使用する非連続型テキストの延数と種類数を示した模式図である。

写真3の読み取りに使用される非連続型テキストの延数は、地図1つ、グラフ2つの3つである。非連続型テキストの種類数を数える時には、グラフは延数では2つであるが、種類としては同じグラフなので1つとし、地図とグラフの2種類と数えた。

1つの景観写真の読み取りに使用する連続型テ

写真3				
写真3 全国に向けて出荷されるナス(高知県 2018年撮影)				
地図4				
図4 高知県のナスの主な出荷先				
グラフ5				
図5 高知県から東京に出荷されるナスの月別量				
グラフ6				
図6 高知県から東京に出荷されるナスの月別価格				
対象写真	読み取りに使用する非連続型テキスト	地図	グラフ	延数
写真3	読み取りに使用する 各非連続型テキストの数と延数	1	2	3
	読み取りに使用する非連続型テキスト	地図	グラフ	総計
	読み取りに使用する 各非連続型テキストの種類数と総計	1	1	2

図2 景観写真の読み取りに使用非連続テキスト延数と種類の数え方の模式図

キストと非連続型テキストを数える範囲は、景観写真が掲載されている見開き2ページ内とした。見開き2ページをまたいで両テキストが使用されている場合、特に非連続型テキストの場合であるが、このような場合は使用テキストとは認定しなかった。

そのように限定した理由は、生徒たちが授業内の学習活動で、教科書で該当する景観写真とその写真の読み取りを行う場合、見開き2ページ内での活動がほとんどである。このことは、自分自身の高校教師としての教育経験からの判断である。

表6 連続型テキスト(解説文、コラム文)の数と割合の推移

教科書検定年	昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
連続型テキスト種類	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
解説文	255	84.7	244	84.7	178	73.0	146	69.5	129	65.5	92	47.9	90	40.0	217	67.0	216	68.8
コラム文	46	15.3	44	15.3	66	27.0	64	30.5	68	34.5	100	52.1	135	60.0	107	33.0	98	31.2
延数総計	301	100	288	100	244	100	210	100	197	100	192	100	225	100	324	100	314	100

表7 景観写真1枚当たりの連続型テキスト平均延数の推移

教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
延数総計	301	288	244	210	197	192	225	324	314
景観写真総枚数	272	266	235	209	268	247	380	476	472
延数/景観写真総枚数	1.11	1.08	1.04	1.00	0.74	0.78	0.59	0.68	0.67

2 景観写真の読み取りに使用する連続型テキストと非連続型テキストの延数の推移—A 社の教科書を分析対象として

ここでの分析対象の教科書を A 社教科書とした。その理由は、表 3 で既に示したように、A 社の教科書を採択している兵庫県内の市町が 85.0%にのぼっているからである。

しかし、より正確な分析結果を得るためには、残り 2 社の教科書分析も行っていかなければならない。残りの 2 社の教科書分析は今後の課題とする。

(1) 連続型テキストの分析

図 1 の写真 2 は、コラム文と解説文の 2 つの連続型テキストで写真 2 の読み取りを行っている。この場合、連続型テキストで読み取りを促されている景観写真は 1 枚とするが、2 つの連続型テキストつまり、コラムと解説文となるので延数を 2 つと数える。

このような数え方で、表 6 より、景観写真の読み取りに使用する連続型テキストの延数の推移を見てみる。

延数総計、昭和 61 年検定の 301 から令和 2 年検定の 314 とわずかに増加しているが、著しい変化はみられない。

各教科書の延数総計に対する解説文とコラム文の占める割合の推移を見てみると、延数総計に占めるコラム文の割合が大きくなっていることがわかる。昭和 61 年検定では 15.3%であったのが、令和 2 年検定では 31.2%と大きく増加している。これは、コ

ラムを用いて地理的事象や用語への説明を過不足なくしていこうとの意図のあらわれと理解できる。

表 7 で示した、連続型テキストの延数総計を景観写真枚数で除した数値の推移を見ると、昭和 61 年検定の 1.11 から令和 2 年検定の 0.67 と半分近くに減じている。

この数値の減少は、景観写真の読み取りに連続型テキストが使用される機会が大きく減少してきていることを示している。

(2) 非連続型テキストの分析

表 8 が示すように、景観写真の読み取りに使用する全非連続型テキストの延数総計の変化をみる。昭和 61 年検定で 171 であったのが、令和 2 年検定では 569 で約 3.3 倍と大幅に増えている。

また、非連続型テキストの種類別延数を見ると、一貫して、地図の占める割合が高い。平成 8 年検定での 42.6%が最低値で、他のほとんどの教科書で 50%~60%と最も高い数値を示している。景観写真の読み取りに、主題図を中心とした地図の使用が最も多いことがわかる。それとは対照的に地形図・地勢図の使用は平成 27 年検定の 4 を示すのみでほとんど使用されていないのは、分析対象とした本文ページから地域調査に関する範囲を除いたことによる。

次に、占める割合で高い数値を示しているのが、グラフである。すべての教科書で 30%台を示している。

つまり、景観写真の読み取りに使用される非連続型テキストは、地図とグラフの 2 つが大部分を占めていることがわかる。

表8 種類別非連続型テキストの延数・割合の推移

教科書検定年	昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
非連続型テキスト種類	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
地形図	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.7	0	0.0
地図	100	58.5	110	64.0	91	49.2	55	42.6	151	53.5	197	58.5	207	48.5	354	59.6	343	60.3
グラフ	62	36.3	52	30.2	61	33.0	50	38.8	94	33.3	113	33.5	163	38.2	193	32.5	177	31.1
表・資料	2	1.2	2	1.2	12	6.5	11	8.5	9	3.2	5	1.5	16	3.7	10	1.7	11	1.9
模式図・イラスト	7	4.1	8	4.7	21	11.4	13	10.1	28	9.9	22	6.5	41	9.6	33	5.6	38	6.7
延数総計	171	100	172	100	185	100	129	100	282	100	337	100	427	100	594	100	569	100

表9 景観写真1枚当たりの非連続型テキスト平均延数の推移

教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
延数総計	171	172	185	129	282	337	427	594	569
景観写真総枚数	272	266	235	209	268	247	380	476	472
延数総計/景観写真総枚数	0.63	0.65	0.79	0.62	1.05	1.36	1.12	1.25	1.21

表9は、景観写真の読み取りに使用する非連続型テキストの延数総計を景観写真総枚数で除した数値の推移を示している。

ここでは、昭和61年検定が0.63であったのが、令和2年検定では1.21で約1.9倍と2倍近くになっていることがわかる。

つまり、景観写真の読み取りに使用する非連続型テキストの役割が大きくなってきていることがわかる。

2の(1)と(2)の分析結果から、景観写真の読み取りに使用するテキストは、連続型テキストの位置づけが低下してきている。そのかわりに、非連続型テキストの位置づけが上昇していることがわかった。

また、非連続型テキストの種類のなかでは、地図の使用が最も多く、次いでグラフの使用が多く、この2つによる読み取りがほとんどであることがわかった。

3 連続型テキスト、非連続型テキスト別に分析した景観写真枚数とその組み合わせの推移

(1) 連続型テキスト、非連続型テキストによる読み取り景観写真枚数の推移

表10では、景観写真枚数を、読み取りに使用するテキスト別の区分、つまり、「連続型テキストのみで読み取る景観写真」、「非連続型テキストのみで読み取る景観写真」、「連続型テキストと非連続型テキス

トの両方を使用して読み取る景観写真」の枚数の推移を見てみた。

「連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」枚数は、昭和61年検定は139枚で、その教科書掲載の景観写真総枚数の50.0%とちょうど半分を占めていた。しかし、令和2年検定では70枚で13.4%と枚数的にも、占有割合的にも、著しく減少していることがわかる。このことは表7で示した数値の変化と関連するものである。

次に、「非連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」枚数の推移をみってみる。昭和61年検定ではわずかに14枚で、その教科書掲載の景観写真総枚数のわずか5.0%を占めるに過ぎなかった。しかし、令和2年検定では、172枚と12倍以上に増え、占める割合は32.8%と大きな数字を示している。

非連続型テキストのみを使用して読み取らせる景観写真が急激に増加してきていることがわかる。

最後に、「連続型テキストと非連続型テキストの両方を読み取りに使用する景観写真」の場合を見てみる。その枚数は、昭和61年検定では119枚で、その教科書掲載の景観写真総枚数の42.8%であった。令和2年検定では230枚で、43.9%となっている。枚数的には約1.9倍と2倍近くに増加しているが、景観写真総枚数に占める割合は、42.8%と43.9%とさほど変わらないことがわかる。つまり、景観写真の読み取りは、連続型テキストと非連続型テキス

表10 連続型テキストのみ、非連続型テキストのみ、連続・非連続型テキスト併用の使用により読み取る景観写真枚数とその割合の推移

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
各景観写真枚数	各テキスト型写真割合	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
連続テキスト型のみの読み取り景観写真		139	50.0	120	44.1	106	39.7	112	46.3	90	31.0	49	17.3	95	21.9	67	13.1	70	13.4
非連続テキスト型のみの読み取り景観写真		14	5.0	21	7.7	35	13.1	24	9.9	89	30.7	74	26.1	172	39.6	179	35.0	172	32.8
連続・非連続テキスト型の併用の読み取り景観写真		119	42.8	125	46.0	94	35.2	73	30.2	89	30.7	124	43.7	113	26.0	230	45.0	230	43.9
連続、非連続テキスト型の読み取り対象とならなかった景観写真		6	2.2	6	2.2	32	12.0	33	13.6	22	7.6	37	13.0	54	12.4	35	6.8	52	9.9
総数	100%	278	100	272	100	267	100	242	100	290	100	284	100	434	100	511	100	524	100

表11 解説文とコラム文を読み取りに使用する景観写真枚数、割合と延数総計の推移

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	枚数/延総数	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
解説文対象の景観写真枚数		138	85.2	120	87.0	89	74.8	78	63.9	59	57.8	20	38.5	38	35.8	35	49.3	36	48.0
コラム文対象の景観写真枚数		24	14.8	18	13.0	30	25.2	44	36.1	42	41.2	32	61.5	68	64.2	36	50.7	39	52.0
解説文・コラム文対象の景観写真延数総計		162	100	138	100	119	100	122	100	102	100	52	100	106	100	71	100	75	100

トを同時に使用して進められる場合が、40%以上と最も多いことがわかった。

まとめると、「連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」の位置づけが低くなり、「非連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」の位置づけが高くなった。「連続型テキストと非連続型テキストの両方を使用して読み取りに使用する景観写真」の位置づけには大きな変化はないと言える。

(2) 「連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」の分析

表 11 は、「連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真の延枚数と、延枚数での「解説文」と「コラム文」の占有割合の推移を見ている。延枚数とは、図 1 の写真 2 のように、1 枚の景観写真の読み取りをコラムと解説文の両方を使用して行っている場合を含めての数え方である。

この 2 種類の連続型テキストの延枚数の推移をみると、昭和 61 年検定では、162 を数えたが、令和 2 年検定済では 75 と 1/2 以下に減少している。

また、昭和 61 年検定では、解説文が占める割合が非常に高く、85.2%となっている。コラムの割合はわずか 14.8%である。それに比べて令和 2 年検定済では、解説文の割合は 48.0%となり、半分を割ってきている。対してコラムは 52.0%と 5 割を超えてきている。

表 12 より、景観写真の全体枚数に対して、連続型テキストのみを使用して読み取る景観写真は、枚数

も割合もともに低下してきていることがわかる。昭和 61 年検定では、139 枚の 50.0%であったが、令和 2 年検定では 70 枚の 13.4%となっている。

まとめると、連続型テキスト（解説文、コラム文）のみを読み取りに使用している景観写真の枚数も全体景観写真枚数に占める割合も大幅に数値を落としてきている。つまり、連続型テキストによる読み取りの重要性が低下してきている。また、その内容、つまり、解説文での読み取りか、コラム文での読み取りかでは、明らかにコラム文での読み取りが重視されるようになってきた。

(3) 「非連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」の分析

表 10 から、「非連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」枚数の数的推移を見ている。昭和 61 年検定では、わずかに 14 枚で、その教科書掲載の景観写真総枚数の 5.0%を占めるに過ぎなかった。しかし、令和 2 年検定済では、172 枚と 12 倍以上に増え、その教科書掲載の景観写真枚数の 32.8%となっている。枚数も占める割合も大幅に増えたことがわかる。

① 「非連続型テキストのみでの読み取りに使用する景観写真」の読み取りに使用する非連続型テキストの種類別推移

非連続型テキストのみの使用で読み取らせる景観写真に使用されている非連続型テキストの延数とその割合の推移を種類別に、表 13 から見てみる。

表 12 読み取りに連続型テキスト(解説文・コラム文)を使用する景観写真枚数の数と割合の推移

教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
連続テキスト型(解説文・コラム文)のみを使用する景観写真枚数	139	120	106	112	90	49	95	67	70
景観写真写真総枚数	278	272	267	242	290	284	434	511	524
連続テキスト型のみを使用する景観写真枚数/景観写真総枚数(%)	50.0	44.1	39.7	46.3	31.0	17.3	21.9	13.1	13.4

表 13 非連続型テキストのみで読み取る景観写真で使用される種類別非連続型テキスト延数と割合の推移

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
種類別非連続 テキスト型延数	非連続テキスト型 延数/延数総計	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
地図		13	50.0	16	69.6	27	54.0	8	22.2	69	51.5	68	58.6	130	47.1	149	56.4	135	51.1
グラフ		12	46.2	6	26.1	15	30.0	20	55.6	52	38.8	37	31.9	99	35.9	90	34.1	104	39.4
表・資料		0	0.0	0	0.0	1	2.0	5	13.9	5	3.7	4	3.4	11	4.0	6	2.3	5	1.9
模式図・イラスト		1	3.8	1	4.3	7	14.0	3	8.3	8	6.0	7	6.0	36	13.0	19	7.2	20	7.6
延数総計	100%	26	100	23	100	50	100	36	100	134	100	116	100	276	100	264	100	264	100

延総計は、昭和 61 年検定の 26 から、令和 2 年の 264 と 10 倍以上に増加していることがわかる。このことは非連続型テキストのみの使用で読み取る景観写真枚数が 12 倍以上に増えたことから十分考えられる。

非連続型テキストの種類別数の延数総計に占める割合の推移を、表 13 で見てみる。やはり、高い数値を示しているのは地図の使用で、平成 8 年検定の 22.2%を除いて、各教科書で 50%に近い数値が示されている。

また、2 番目に高い数値を示しているのがグラフで、昭和 61 年検定の 46.2%と平成 8 年検定の 55.6%を除いて、30%に近い数字を示している。

② 組み合わせ数の推移

表 14 では、読み取りに使用される非連続型テキストの種類数でみた景観写真枚数の推移を見てみる。

読み取りに使用する非連続型テキストが 1 種類の景観写真枚数の総枚数に占める割合の推移を見てみる。昭和 61 年検定で 78.6%、平成元年検定で 90.5%、平成 4 年検定で 80.0%、平成 8 年検定で 83.3%と、この 4 つの教科書では 80%に近い数字か、それ以上の数字を示している。

しかし、平成 13 年検定で 66.3%の数字を示して以降、平成 17 年検定、平成 23 年検定、平成 28 年検定、令和 2 年検定と 5 回の教科書改訂ではいずれも 60%台を示している。

それに対して、2 種類の非連続型テキストで読み取る景観写真枚数、占める割合ともが増加している。枚数では、平成元年検定ではわずかに 2 枚であったが、令和 2 年検定では 52 枚となり、26 倍にも増加している。

占める割合で見ると、平成 13 年検定で 33.7%の数字を示して以降、平成 17 年検定、平成 23 年検定、

平成 27 年検定、令和 2 年検定と 5 回の教科書改訂ではいずれも 30%前後を示している。

非連続型テキスト 1 種類で読み取る景観写真枚数の占める割合が 60%台に低下してきたのは、非連続型テキスト 2 種類で読み取る景観写真の占める割合が 30%台に上昇してきたことで起こってきた現象である。

また、3 種類の非連続型テキストで読み取らせる景観写真枚数が、平成 23 年検定で 12 枚、平成 27 年検定で 5 枚 令和 2 年検定で 6 枚と 5 枚以上となっている。

つまり、複数の非連続型テキストを使用して景観写真の読み取りを多面的に深く読み取らせようと企図する景観写真が増えてきていることがわかる。

③ 組み合わせの種類の推移

a 1 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類別の数と割合の推移

表 15 を見ると、地図での読み取りが最も多く、次いでグラフでの読み取りである。

地図による読み取りが平成 8 年検定を除けば、各教科書とも 55%以上になっている。高い場合は平成元年検定で 73.7%、平成 4 年検定で 71.4%と 7 割を超えている。

次に多いのは、グラフで平成 23 年検定を除いて、各教科書で 20%以上となっている。

b 2 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類別の数と割合の推移

表 16 を見ると、2 種類の組み合わせでは、地図とグラフの組み合わせの「地図・グラフ」がほとんどである。平成 4 年検定と平成 8 年検定を除いて、各教科書で 78%～100%となっている。前述の 1 種類での読み取りで、地図が最も多く、次いでグラフが多いことを分析したが、その分析結果から予想できる組

表 14 読み取りに使用する非連続型テキスト種類数別の景観写真枚数と割合の推移(非連続型テキストのみ使用の場合)

教科書検定年		昭和 61 年 (1986 年)		平成元年 (1989 年)		平成 4 年 (1992 年)		平成 8 年 (1996 年)		平成 13 年 (2001 年)		平成 17 年 (2005 年)		平成 23 年 (2011 年)		平成 27 年 (2015 年)		令和 2 年 (2020 年)	
景観写真枚数	割合(%)	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
使用する非連続テキスト型 が 1 種類の景観写真枚数		11	78.6	19	90.5	28	80.0	20	83.3	59	66.3	50	67.6	105	61.0	124	69.3	114	66.3
使用する非連続テキスト型 が 2 種類の景観写真枚数		3	21.4	2	9.5	5	14.3	2	8.3	30	33.7	23	31.1	55	32.0	50	27.9	52	30.2
使用する非連続テキスト型 が 3 種類の景観写真枚数		0	0.0	0	0.0	1	2.9	2	8.3	0	0.0	1	1.4	12	7.0	5	2.8	6	3.5
総枚数	100%	14	100	21	100	35	100	24	100	89	100	74	100	172	100	179	100	172	100

み合せでもある。

c 3 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類の推移

表 17 より、3 種類の非連続型テキストを使用しての景観写真の読み取りは、平成 17 年検定から増えてきている。平成 17 年検定で 4 枚、平成 23 年検定で 12 枚、平成 27 年検定で 5 枚、令和 2 年検定で 6 枚となっており、平成 17 年検定以降すべての教科書で 4 枚以上の事例を見ることができる。

平成 13 年検定以前では、平成 4 年検定で 1 枚、平成 8 年検定で 2 枚確認するのみで、昭和 61 年検定、平成元年検定、平成 13 年検定では、3 種類の非連続型テキストで読み取りをする景観写真は 0 枚である。このことから、平成 17 年検定以降での景観写真の読み取りでは、3 種類の非連続型テキストを使用する場面もあり、景観写真の読み取りを複数の視点から進めようとする意図が読み取れる。3 種類の非連続型テキストの組み合わせは「地図＋グラフ＋模式図・イラスト」の場合がほとんどであることがわかる。これも 1 種類の非連続型テキストでの読み取りの分析（表 15）から、類推できる結果である。この表で

は、3 種類の組み合わせが数的に多くないので、各占める割合を示さなかった。

(4) 「連続型テキストと非連続型テキストで読み取りに使用する景観写真」の分析

① 「連続型テキストと非連続型テキストで読み取る景観写真に使用するテキストの種類別推移

a 連続型テキスト種類別の推移

表 18 より、解説文が中心で、平成 17 年検定の 19.9%、平成 23 年検定の 19.3%となっている以外は、平成 13 年検定の 28.8%を最低値として、各教科書で 30%近いかそれ以上の数値を示している。

コラム文は、昭和 61 年検定の 6.8%、平成元年検定の 8.7%と 10%を割っている。それ以降は、平成 23 年検定の 24.5%と高い数値を示しているのを含めて、10%以上の数値を示しており、増加傾向であることを示している。

しかし、表 6 で示した総数での占める割合の推移で、コラム文の数が、30%台に増えてきているほどには増加していない。

表 15 景観写真読み取りに使用する非連続型テキストが1種類の各種別数・割合の推移(非連続型テキストのみの場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	割合	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
地形図		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
地図		7	63.6	14	73.7	20	71.4	5	25.0	34	57.6	30	60.0	66	62.9	86	69.4	69	60.5
グラフ		3	27.3	4	21.1	7	25.0	12	60.0	15	25.4	11	22.0	19	18.1	27	21.8	36	31.6
表・資料		0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	10.0	3	5.1	3	6.0	7	6.7	3	2.4	2	1.8
模式図・イラスト		1	9.1	1	5.3	2	7.1	1	5.0	7	11.9	6	12.0	13	12.4	8	6.5	7	6.1
総枚数	100%	11	100	19	100	28	100	20	100	59	100	50	100	105	100	124	100	114	100

表 16 景観写真読み取りに使用する非連続型テキストが2種類の各種別数・割合の推移(非連続型テキストのみの場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	割合(%)	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
地図＋グラフ		3	100	2	100	2	40.0	1	50.0	27	90.0	22	95.7	43	78.2	44	88.0	45	86.5
地図＋表・資料										2	6.7	1	4.3	2	3.6	1	2.0	1	1.9
地図＋模式図・イラスト						2	40.0			1	3.3			4	7.3	2	4.0	4	7.7
グラフ＋表・資料														1	1.8	2	4.0	1	1.9
グラフ＋模式図・イラスト						1	20.0	1	50.0					5	9.1	1	2.0	1	1.9
表・資料＋模式図・イラスト																			
総枚数	100%	3	100	2	100	5	100	2	100	30	100	23	100	55	100	50	100	52	100

表 17 景観写真読み取りに使用する非連続型テキストが3種類の各種別数・割合の推移(非連続型テキストのみの場合)

教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
地図＋グラフ＋模式図・イラスト						4	11	5	5
地図＋グラフ＋表・資料				2			1		1
地図＋表・資料＋模式図・イラスト									
グラフ＋表・資料＋模式図・イラスト			1						
総枚計	0	0	1	2	0	4	12	5	6

b 非連続型テキストの推移

表 18 より、やはり、景観写真の読み取りに最も使用されている非連続型テキストは、地図であることがわかる。すべての教科書で、ほぼ 25%以上を示している。

次に多いのがグラフである。昭和 61 年検定の 24.5%、平成 17 年検定の 21.1%、平成 23 年検定の 23.8%と 20%台となっているが、他の教科書では 10%台である。

地図とグラフが景観写真の読み取りに使用される非連続型テキストの 2 つの柱であることがわかる。

② 組み合わせ数の推移

表 19 では、連続型テキストと非連続型テキストの両方を使用して読み取る景観写真の枚数と割合の推移を使用する非連続型テキストの種類数別に見てみた。ここでは、連続型テキストの種類つまり、解説文とコラム文があり、両方を使用している場合もあるが、その区分はせず、解説文とコラム文を同時に使用していても連続型テキストと 1 つにまとめて考えた。

表 19 を見ると、連続型テキストと 1 種類の非連続型テキストの組み合わせが最も多いことがわかる。平成 13 年検定の 66.3%、平成 17 年検定の 58.9%を除いて、各教科書で 70%以上と高い数値を示している。

連続型テキストと 2 種類の非連続型テキストの組み合わせは平成 13 年検定の 33.7%、平成 17 年検定の 38.7%を除いて、各教科書で 20%台以下の数値を示している。

連続型テキストと 3 種類の非連続型テキストの組み合わせはわずかであるが、各教科書すべてで 10%未満となっている。

③ 組み合わせの種類

a 1 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類別の数と割合の推移

表 20 より、連続型テキストと非連続型テキスト 1 種類での読み取りは、やはり、非連続型テキストは地図の場合が最も多く、各教科書において 55%以上となっている。2 番目に多い非連続型テキストはグラフで、令和 2 年検定を除いて 16%以上となっている。

他の非連続型テキストで高い数値を示しているのは。模式図・イラストが、平成 4 年検定で 9 枚で 13.0%、平成 13 年検定で 7 枚で 11.9%が 10%を超えるのみである。

b 2 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類別の数と割合の推移

表 21 より、非連続型テキストを 2 種類使用して読み取る景観写真枚数の推移を見ると、昭和 61 年検定で 31 枚、その後、平成元年検定 22 枚、平成 4

表 18 景観写真読み取りに使用するテキストの種類別延数と割合の推移(連続型テキストと非連続型テキスト併用の場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
延数	割合(%)	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
解説		117	36.3	124	41.5	89	34.2	68	37.6	70	28.8	72	19.9	52	19.3	179	31.0	181	33.2
コラム		22	6.8	26	8.7	36	13.8	20	11.0	25	10.3	68	18.8	66	24.5	71	12.3	59	10.8
連続テキスト型小計		139	43.2	150	50.2	125	48.1	88	48.6	95	39.1	140	38.8	118	43.9	250	43.3	240	44.0
地形図		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	0.7	0	0.0
地図		96	29.8	94	31.4	64	24.6	47	26.0	82	33.7	129	35.7	77	28.6	204	35.3	208	38.2
グラフ		79	24.5	46	15.4	46	17.7	30	16.6	42	17.3	76	21.1	64	23.8	102	17.6	73	13.4
表・資料		2	0.6	2	0.7	11	4.2	6	3.3	4	1.6	1	0.3	5	1.9	4	0.7	6	1.1
模式図・イラスト		6	1.9	7	2.3	14	5.4	10	5.5	20	8.2	15	4.2	5	1.9	14	2.4	18	3.3
非連続テキスト型小計		183	56.8	149	49.8	135	51.9	93	51.4	148	60.9	221	61.2	151	56.1	328	56.7	305	56.0
総計	100%	322	100	299	100	260	100	181	100	243	100	361	100	269	100	578	100	545	100

表 19 読み取りに使用する非連続型テキスト種類数別の景観写真枚数と割合の推移(連続型テキストと非連続型テキスト併用の場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	割合	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
連続テキスト型＋ 非連続テキスト型が1種類		86	72.3	102	81.6	69	73.4	63	86.3	59	66.3	73	58.9	94	83.2	168	71.5	175	76.1
連続テキスト型＋ 非連続テキスト型が2種類		31	26.1	22	17.6	19	20.2	9	12.3	30	33.7	48	38.7	18	15.9	63	26.8	48	20.9
連続テキスト型＋ 非連続テキスト型が3種類		2	1.7	1	0.8	6	6.4	1	1.4	0	0.0	3	2.4	1	0.9	4	1.7	7	3.0
総枚数	100%	119	100	125	100	94	100	73	100	89	100	124	100	113	100	235	100	230	100

表 20 読み取りに使用する非連続型テキストが1種類の景観写真枚数と割合の推移(連続型テキストと非連続型テキスト併用の場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	割合(%)	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
地形図		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.4	0	0.0
地図		57	66.3	71	69.6	39	56.5	40	63.5	39	66.1	51	69.9	58	61.7	130	77.4	150	85.7
グラフ		25	29.1	26	25.5	19	27.5	15	23.8	10	16.9	15	20.5	27	28.7	27	16.1	15	8.6
表・資料		1	1.2	1	1.0	4	5.8	3	4.8	3	5.1	0	0.0	5	5.3	1	0.6	1	0.6
模式図・イラスト		3	3.5	4	3.9	9	13.0	5	7.9	7	11.9	7	9.6	4	4.3	6	3.6	9	5.1
総枚数	100%	86	100	102	100	69	100	63	100	59	100	73	100	94	100	168	100	175	100

表 21 読み取りに使用する非連続型テキストが2種類の組み合わせの枚数と割合の推移(連続型テキストと非連続型テキスト併用の場合)

教科書検定年		昭和61年 (1986年)		平成元年 (1989年)		平成4年 (1992年)		平成8年 (1996年)		平成13年 (2001年)		平成17年 (2005年)		平成23年 (2011年)		平成27年 (2015年)		令和2年 (2020年)	
景観写真枚数	割合(%)	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%	枚数	%
地図+グラフ		29	93.5	19	86.4	15	78.9	2	22.2	20	66.7	42	87.5	18	100	56	88.9	44	91.7
地図+表・資料		1	3.2	1	4.5	1	5.3					1	2.1			3	4.8		
地図+模式図・イラスト		1	3.2	2	9.1	2	10.5	4	44.4	6	20.0	4	8.3			2	3.2	1	2.1
グラフ+表・資料						1	5.3	3	33.3	1	3.3							2	4.2
グラフ+模式図・イラスト										3	10.0	1	2.1			2	3.2	1	2.1
表・資料+模式図・イラスト																			
総枚数	100%	31	100	22	100	19	100	9	100	30	100	48	100	18	100	63	100	48	100

表 22 読み取りに使用する非連続型テキストが3種類の組み合わせの枚数と割合の推移(連続型テキストと非連続型テキスト併用の場合)

教科書検定年	昭和61年 (1986年)	平成元年 (1989年)	平成4年 (1992年)	平成8年 (1996年)	平成13年 (2001年)	平成17年 (2005年)	平成23年 (2011年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
地図+グラフ+模式図・イラスト	2	1	3	1		3	1	4	4
地図+グラフ+表・資料			3						3
地図+表・資料+模式図・イラスト									
グラフ+表・資料+模式図・イラスト									
計	2	1	6	1	0	3	1	4	7

年検定 19 枚、平成 8 年検定 9 枚、平成 13 年検定 30 枚、平成 17 年検定 48 枚、平成 23 年検定 18 枚、平成 27 年検定 63 枚、令和 2 年検定 48 枚と、各教科書で枚数が多い時や、少ない時があり、一定の傾向を示してはいない。あえて言うなら、最近の 2 つの教科書では増加傾向である。

2 種類の非連続型テキストの組み合わせを見てみると、地図とグラフの組み合わせが最も多くなっている。占める割合で見ると、平成 8 年検定の 22.2%を除いて、各教科書で 60%以上になっている。

c 3 種類の非連続型テキストで読み取る場合の種類別の推移

表 22 より、非連続型テキスト 3 種類を使用する景観写真枚数の推移をみる。枚数の多い教科書は、平成 4 年検定で 6 枚、平成 27 年検定で 4 枚、令和 2 年検定で 7 枚となる。近

年の 2 つの教科書で増加傾向にあるとも言えなくもないと言った状態であり、顕著な増加傾向を認めるまでには至っていない。多い組み合わせとしては、地図、グラフと模式図・イラストがほとんどである。次に地図、グラフ、表・資料の組み合わせである。つ

まり、地図とグラフの組み合わせ+αの形である。やはり、ここでも読み取りのベースになる非連続型テキストは地図とグラフであることがわかる。

4 まとめ - 分析結果より

(1) 景観写真の読み取りに使用する連続型テキスト、非連続型テキストの延数総計の推移から

- ① 連続型テキストを使用する機会が大きく減少してきている。
- ② 連続型テキストのなかでの解説文とコラム文の位置づけは、コラム文の割合が大きくなっている。これは、コラムを用いて地理的事象や用語への深い理解を促していく意図のあらわれと考えられる。
- ③ 景観写真の読み取りに使用する非連続型テキストの役割が大きくなってきている。
- ④ 景観写真の読み取りに使用される非連続型テキストは、地図が最も多く、次いでグラフが多い。そして、この 2 つが大部分を占めている。

(2) 「連続型テキストのみを読み取りに使用する
景観写真」枚数の推移から

- ① 大きく減少している。このことは、延数総計で連続型テキストの位置づけが低下してきていることから理解できる。

(3) 「非連続型テキストのみで読み取りに使用する
景観写真」枚数の推移から

- ① 「非連続型テキストのみで読み取りに使用する景観写真」枚数が大きく増加している。このことは、延数総計で非連続型テキストの位置づけが高くなっていることから理解できる。「連続型テキストのみを読み取りに使用する景観写真」の枚数が減少しているのとは逆の傾向である。
- ② 読み取りに使用する非連続型テキストは地図が最も多く、次いでグラフである。このことも延数総計の分析から類推できることである。
- ③ 読み取りに使用する非連続型テキストが 1 種類の景観写真枚数の総枚数に占める割合が最も高い。しかし、減少傾向にある。
- ④ 対して、読み取りに使用する非連続テキスト型が 2 種類の景観写真枚数、占める割合がともに増加している。
- ⑤ 読み取りに使用する非連続テキスト型が 3 種類の景観写真枚数は、平成 23 年検定、平成 27 年検定、令和 2 年検定で 5 枚以上となっており、増加傾向を示している。
- ⑥ つまり、複数の非連続型テキストを使用して景観写真を多面的に深く読み取らせようと企図する景観写真が増えてきている。
- ⑦ 1 種類の非連続型テキストを読み取りに使用する場合は、地図での読み取りが最も多く、次いでグラフでの読み取りが多い。
- ⑧ 2 種類の非連続型テキストの組み合わせでは、地図とグラフの組み合わせがほとんどである。
- ⑨ 3 種類の非連続型テキストの組み合わせは「地図＋グラフ＋模式図・イラスト」がほとんどである。

(4) 「連続型テキストと非連続型テキストの併用
で読み取る景観写真」枚数の推移から

- ① 「連続型テキスト使用で読み取る景観写真」枚数が減少し、「非連続型テキスト使用で読み取る景観写真」枚数が増加している。「連続型テキストと非連続型テキストの併用で読み取る景観写真」枚数の占める割合の位置づけには大きな変化はない。「連続型テキストと非連続型テキストの併用で読み取る景観写真」枚数が各教科書で最も多く、占める割合も最も高い。
- ② 読み取りに使用される連続型テキストは、解説文が中心である。
- ③ 読み取りに最も多く使用されている非連続型テキストは、地図である。次に多いのがグラフである。地形図、表・資料、模式図・イラストの使用が 10%以上を示している教科書はない。
- ④ 連続型テキストと 1 種類の非連続型テキストの組み合わせが最も多い。ここで使用される非連続型テキストは地図が最も多く、次にグラフである。
- ⑤ 連続型テキストと 2 種類の非連続型テキストの組み合わせは比較的低い数値を示している。2 種類の非連続型テキストの組み合わせは、地図とグラフの組み合わせが最も多い。
- ⑥ 連続型テキストと 3 種類の非連続型テキストの組み合わせはすべての教科書で低い数値を示している。非連続型テキスト 3 種類の数的推移は、顕著な増加傾向を認めるまでには至っていない。多い組み合わせは、地図、グラフ、模式図・イラストの組み合わせがほとんどである。次に地図、グラフ、表・資料の組み合わせである。つまり、地図とグラフの組み合わせ＋ α の形である。
- ⑦ 「非連続型テキストのみを使用して読み取る景観写真」の場合、非連続型テキストを 2 つ以上使用して読み取る写真枚数が増加傾向にあった。対して、「連続型テキストと非連続型テキストを併用して読み取る景観写真」の

場合、非連続型テキストを2種類以上使用して読み取る写真枚数は多くない。その理由として、すでに連続型テキストが読み取りテキストとして1つ確保されている状態であり、非連続型テキストを2種類以上使用して読み取る必要がないので、景観写真枚数が増加傾向を示していないと考えられる。

注

- 1) 田中(1935:10-11)は、地学写真の分類で、「地形写真」、「景観写真」、「標本写真」の3種類に分類している。さらに「標本写真」を「野外標本写真」と「個別標本写真」の2つに分類している。ここで示した標本写真は、田中の分類の「個別標本写真」を参考にした。田中は、「個別標本写真」を「併し、稀には岩石の標本や、農具や、器物や、作物等を、この原位置から動かして、個別に撮影する必要を感ずる」写真としている。

参考資料

1. 参考文献・ホームページ
沖 慶子(2002)「明治期の地理書および地理教科書における写真資料の導入」 人文地理学会大会研究発表要旨
澤田康徳(2016)「小学校地図帳における世界に関する地理写真の内容の変化ー自然事象を中心として」 2015年度日本地理学会春季学術大会発表要旨
田中 薫(1935)『地学写真』 古今書院 182p.
兵庫県教育委員会ホームページ(2024):義務教育課
>教科書関係>教科書に関する
(<https://www2.hyogoc.ed.jp/hpe/gimu/kyokasyo>)
文部科学省ホームページ(2024):小・中・高校教育に関すること > 確かな学力 > 参考資料 > 平成16年度 臨時全国都道府県・指定都市教育委員会指導主事会議(平成17年1月19日開催) > 資料4-9 PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向 > 1 PISA調査における読解力の定義, 特徴等 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/1379669.htm)

2. 教科書:各出版社別

(1) 帝国書院

- 昭和 61 年検定済『社会科 中学新地理 世界の人々とわが国土〈三訂版〉』304p.
平成元年検定済『社会科 中学新地理 世界の人々とわが国土〈四訂版〉』302p.
平成4年検定済『社会科 中学生の地理 世界の人々と日本の国土〈最新版〉』335p.
平成8年検定済『社会科 中学生の地理 世界の人々と日本の国土〈初訂版〉』331p.
平成13年検定済『社会科 中学生の地理 世界のなかの日本〈最新版〉』223p.
平成17年検定済『社会科 中学生の地理 世界のなかの日本〈初訂版〉』228p.
平成23年検定済『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』280p.
平成27年検定済『社会科 中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』280p.
令和2年検定済『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』300p.

(2) 東京書籍

- 昭和 61 年検定済『新編 新しい社会(地理)』303p.
平成元年検定済『新訂 新しい社会 地理』313p.
平成4年検定済『新しい社会 地理』305p.
平成8年検定済『新編 新しい社会 地理』307p.
平成13年検定済『新しい社会 地理』201p.
平成17年検定済『新編 新しい社会 地理』233p.
平成23年検定済『新しい社会 地理』263p.
平成27年検定済『新編 新しい社会 地理』295p.
令和2年検定済『新しい社会 地理』295p.

(3) 大阪書籍・日本文教出版

- *平成21年(2009年)1月21日付けで日本文教出版社が正式に大阪書籍の教科書の著作権譲渡と継続発行を発表した(平成21年度(2009年度)発行分から大阪書籍の教科書は日本文教出版の名義

で供給)。これ以降、同社は中学校用社会の教科書を平成 23 年度（2011 年度分）までは 2 種類発行していた。学習指導要領改訂にあわせて、前学年から持ち上がりで利用するものを除き、1 冊に統一。

昭和 61 年検定済『中学社会 地理的分野』

303p.（大阪書籍）

平成元年検定済『中学社会 地理的分野』 304p.

（大阪書籍）

平成 4 年検定済『中学社会 地理的分野』 308p.

（大阪書籍）

平成 8 年検定済『中学社会 地理的分野』 298p.

（大阪書籍）

平成 13 年検定済『中学社会 地理的分野』

222p.（大阪書籍）

平成 17 年検定済『中学社会 地理的分野』

259p.

（この改訂での日本文教出版の教科書は 2 種類ある。ここでの分析対象は、旧大阪書籍の流れをくむ教科書とした。）

平成 23 年検定済『中学社会 地理的分野』

305p.（日本文教出版）

平成 27 年検定済『中学社会 地理的分野』

281p.（日本文教出版）

令和 2 年検定済『中学社会 地理的分野』

287p.（日本文教出版）

3. 学習指導要領分野：国立教育政策研究所教育研究情報データベース閲覧

(<https://erid.nier.go.jp/guideline.html>)

文部省(平成元年 3 月告示) 中学校学習指導要領

文部省(平成 10 年 12 月告示) 中学校学習指導要領

文部科学省(平成 20 年 3 月告示) 中学校学習指導要領

文部科学省(平成 29 年 3 月告示) 中学校学習指導要領

(くぼ てつなり・神戸学院大学非常勤講師)